

ウラン兵器禁止を求める 国際共同行動デー

11.5 大阪連帯集会／街頭行動

ウラン兵器禁止と被害者支援を求める草の根の国際ネットワーク「ウラン兵器禁止を求める国際連合」(ICBUW)の呼びかけで、今年も11月初めに世界各国、日本各地で、「ウラン兵器禁止を求める国際共同行動デー」のさまざまな取組みがなされます。これは、11月6日の国連の「戦争と武力紛争による環境収奪を防止する国際デー」(2001年、国連決議)にあわせて、ウラン兵器禁止を国際社会に広く訴えようと、ICBUWが毎年取組んでいるもので、今年で3回目になります。国内外の運動と連帯し、今年も大阪で、11月5日に連帯集会と街頭署名・アピール行動を行いたいと思います。



ICBUWは8月に、被爆地ヒロシマで「ウラン兵器禁止を訴える国際大会」を開催しました。「ヒロシマから世界へ届けよう“劣化ウランヒバクシャ”の声を！」との呼びかけに応え、全世界から劣化ウラン被害者、活動家、科学者、法律家、ジャーナリストなどが広島に集い、連帯を深めました。「禁止条約」を求め、被害調査や被害者支援をさらに進めることを確認し合いアピールをめました。また、嘉手納の米軍基地のウラン兵器の問題など、日本の運動が取組まねばならない課題も提起されました。「大阪連帯集会」では、広島国際大会の成果をふまえ、今後の運動を皆さんとともに、さらに進めてゆくために、議論を深めたいと思います。 **皆さん、ぜひご参加下さい！**

NO! ウラン兵器



* 街頭署名・アピール行動：12:00～13:30 場所：梅田（JR大阪駅北側、陸橋上に集合）

* 連帯集会：14:30～17:00 場所：東淀川勤労者センター（新大阪下車徒歩10分、地図参照）

- 1) ICBUW広島国際会議をふまえウラン兵器禁止運動を国内外でさらに進めるために
問題提起：振津かつみ (ICBUW評議員)
- 2) 外務省交渉(嘉手納基地の劣化ウラン弾貯蔵問題etc.)など日本政府への質問・追及の取組み
報告：参議院議員 福島みずほ 事務所 担当秘書
- 3) 日本の原発・核燃料サイクル推進と劣化ウラン
報告：若狭連帯行動ネットワーク
- 4) 討論—今後の取組み、活動の報告、アピールなど

* 11/5までに皆さんの周囲で集められた署名があれば、当日お持ち下さい。

「ウラン兵器禁止国際共同行動日」大阪連帯行動・呼びかけ：
「ウラン兵器禁止を求める国際連合」(ICBUW) 評議員 振津かつみ
取組みへの賛同(個人・団体)をお願いします！

お問合せ：<du-ban-hibaku@theia.ocn.ne.jp>



原発・核燃料サイクル、核兵器製造の過程で生み出される「劣化ウラン」 新たなヒバクと放射能汚染をもたらしているウラン兵器を禁止させよう！

米英軍、NATO軍によってイラク、コソボなどで大量に使用されたウラン兵器は、核燃料・核兵器の製造過程で生じた放射性廃棄物「劣化」ウランの軍事利用。日本の原発の燃料製造のためにできた「劣化」ウラン(DU)が、米国でのウラン兵器製造に使用されていない保証はありません。また日本国内でも、原発・核燃料サイクル推進の中で劣化ウランが生み出されています。

戦場で爆発とともに散布されたウランの微粒子は広範囲に拡散します。また放置された不発弾や汚染戦車でも住民がヒバクします。環境の放射能汚染は将来世代に及び(ウラン238の半減期は45億年)、ウランの放射能・化学毒性により、兵士のみならず多くの一般市民が健康被害の脅威に曝されているのです。

またウラン兵器は「無差別殺傷兵器」のひとつで、国際人道・人権法、軍縮法に反するものです。ウラン兵器の製造・運搬・貯蔵・試射などを全面的に国際的に禁止させることが求められています。

沖縄の嘉手納基地に40万発の劣化ウラン弾が2001年に保管されていた

韓国から広島のICBUW国際大会に参加したフォトジャーナリストで平和活動家のイ・シウさんは、アジアに貯蔵されている米軍基地内の劣化ウラン兵器の危険性を強く訴えました。ハワイ在住のイ・シウさんの友人が、アメリカの情報公開法に依って公開させた機密文書によると、「沖縄の嘉手納基地に40万発の劣化ウラン弾が2001年には保管されていた」とのこと。この砲弾の数は、1991年の湾岸戦争時に米軍が使用した砲弾の半分にも相当するものです。イ・シウさんは「韓国と沖縄の米軍基地に大量のウラン兵器が貯蔵されている。その数量の実数と記録上の数にかなりの差があり、どこかに紛失してしまっている。劣化ウラン兵器の貯蔵と管理に深刻な問題があることを示している。」と報告しました。

沖縄の鳥島では1995年から1996年にかけて、米軍が射撃訓練で1520発の劣化ウラン弾を打ち込み、1997年になってやっとそのことが発覚したという事件がありました。その後の回収作業で回収されたのは、使用されたウラン爆弾の6分の1にも満たないのです。

世界とアジアの運動とも連帯し、日本国内の米軍基地にあるウラン兵器の実態を明らかにさせ、撤去を求めましょう。



8月ICBUW 広島大会